



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 273

2019/10/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

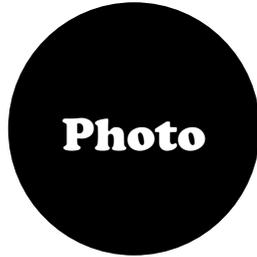
GREEN COLUMN

01. モクズガニ

02. 歴史の上を歩く



今月の一枚



「マスは川だけではない」

表紙写真・文／町田善康

山の中、ひときわ目を引くオレンジ色の大きなキノコ。マスタケです。傘の色が、サクラマスの身の色にそっくりで食欲をそそられます。幼菌のうちは、フライにして食べるとまるで鳥肉のような触感に、独特の風味が美味。

しかし、生食すると中毒を起こすので、注意が必要です。食べたい方は自己責任で。

Event. 今月のイベント

企画展「絵を描く心～岸本裕躬作品より」 ～10月20日(日)

開館記念日イベント(無料開館) 10月6日(日)

プチ工房「ジャンピングバッタをつくろう」 10月9日(水), 11日(金)

博物館講座(芸術編)「シルクスクリーンのワークショップ」 10月19日(土)

Information. 参加者募集

開館記念日イベント(無料開館)

- 10/6(日)【もちつき体験】10:00-12:00,【おぼけ風船をつくろう】10:00-13:00 ●美幌博物館 ●無料
- 美幌博物館スタッフ ●申込み不要。

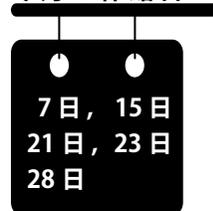
博物館講座(芸術編)「シルクスクリーンのワークショップ」

【体験会】● 10/19(土) 10:00-12:00 ●美幌博物館 ●材料代(400円), エプロンまたは汚れても良い服装, 図案(用意がある方のみ。15cm × 15cm 以内の簡単な線画) ●中村花絵(女子美術大学) ●美幌博物館へ電話申込み(10/1-18)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要, 定員20名で締切。

プチ工房「ジャンピングバッタをつくろう」

- 10/9(水), 11(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(3個で300円) ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

歴史の上を 歩く

写真・文／八重柏誠



博物館ではこの夏、教員や中学生を対象とした職場体験、学芸員実習など、学芸員の仕事を知っていただく機会があり、私が行ったのは、町の中を歩いて歴史を学ぶ体験型の講座でした。

スタート地点は美幌町元町にある「史跡 びほろほかごかそんこちょうやくばあと 美幌外五ヶ村戸長役場跡」の石碑、美幌町市街地を見渡せる眺望の良い場所です。明治20(1887)年10月12日、初代戸長 のぎきまさなが 野崎政長が開庁式を行ったのが、町の始まりとされています。明治20年代の美幌村は、ここから美幌小学校の方向に1本の道が伸び、その脇に草葺の家が並ぶ人口100人ほどの小さな村でした。

次に向かったのは「史跡 美幌簡易教育所跡」。公園通の坂を下り、美幌小学校方向の路地に入ると、住宅街にひっそりと石碑が建っています。明治33(1900)年に開校した、最初の学

校があった場所です。教育所は翌年、100mほど離れた現在の美幌小学校に移転します。学校には樹齢200年以上と推測されるカシワの木が今も残り、美幌のシンボルとして親しまれています。

続いて美幌警察署の前にやってきました。ここには明治37(1904)年に戸長役場が移転しています。移転以降、付近を撮影した写真が多く残されており、撮影年順に見ていくと、美幌発展の様子を知ることができます。そこから大通を南団地方向に曲がり、スタート地点まで戻りました。

歩いたルートを上空から見ると、一辺545mの正方形となります。これは明治時代に開拓のための基準とした、殖民区画と呼ばれるものです。実は道内各地に今も残る殖民区画の大きさも体験できる講座だったのです。

01 GREEN COLUMN グリーンコラム



モクズガニ

写真・文／町田善康



ハサミに毛が生えていて、モクズガニの名前は、これに由来します。特に、大人のオスには毛が多く、より大きなハサミを持つオスが、モテるようです。

海で生まれて、川で成長し、大人になると、秋から冬にかけて川を下って海で産卵をします。食用として有名な「上海蟹しゃんはいがに（チョウセンモクズガニ）」と近い種類のカニで、日本各地で食されます。流通量が少なく、ほとんどが地元で自家消費されるので、口にする機会は、めったにないはずです。

漁法は、秋から冬にかけて産卵のために川を下るモクズガニを狙って、ヤナやカゴを仕掛けて捕獲します。取引価格は、kgあたり数千円程度の卸値で、なかなかの高級食材です。カニミソ（中腸腺）や筋肉は、タラバガニや毛ガニなどの海産のカニとは違った味わいがし、特にメスの未成熟の卵は、独特の

甘みがあり美味。

10年前、私が調査を始めたころには、網走川では、ほとんど見かけなかったモクズガニも、数年前からよく見られるようになり、今年は特に多く見わかります。川での観察会では、サクラマス（ヤマメ）やイワナ（アメマス）とともに観察会の常連メンバー入りを果たし、人気者の一つとなってきました。

また、9月上旬に行った用水路の調査では、毎年たくさんのウチダザリガニが採れるはずなのに、今年は1匹も採れず、代わりにモクズガニが大量に見つかりました。もし、モクズガニたちがウチダザリガニを追い出しているのであれば、うれしい限りです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



先日、娘の幼稚園の親子参観で紙粘土細工を作ってきました。親子で協力して作ろうということです。得意の粘土ということで、気合いを入れてウサギを作りましたが、子供の手が入っているとは思えない素晴らしい作品ができてしまいました。

(八重柏)